

(様式1)

職業実践力育成プログラム(BP)への申請について

令和4年10月20日

①学校名:	早稲田大学 大学(私立)	②所在地:	東京都新宿区戸塚町1-104		
③課程名:	早稲田リーダーシップカレッジ	④正規課程/履修証明プログラム:	履修証明プログラム	⑤開設年月日:	2018/4/1
⑥責任者:	早稲田大学 社会人教育事業室長	⑦定員:	15名	⑧期間:	4ヶ月間
⑨申請する課程の目的・概要:	本プログラムは、プロジェクト型学習とスキル強化練習を交互に繰り返すことにより、他者のリーダーシップ開発を行うことのできる人材を育成するための課程である。権限が無い場合、役職についていない場合、またカリスマ性が無い場合などにおいても発揮できるリーダーシップを学び、どのような環境においても発揮が求められる態度スキルの習得を目指す。例えば、不平不満を提案に変え、実行することがその代表的な行動例である。こうしたリーダーシップ教育は現在、高校・大学を中心に広がりとつあるため、近い将来「リーダーシップを教えることのできる教育者」が不足することになるだろうと考えられる。受講者は、本プログラムを通じて、自らのリーダーシップについての持論を構築する。その後、企業や学校等の現場で直面する様々な課題に対して、リーダーシップを発揮しながら、ワークショップスタイルでの課題解決の実践者として活躍することができる能力を習得し、他者のリーダーシップを引き出し、開発することが期待される。				
⑩10テーマへの該当	女性活躍	⑪履修資格:	学校教育法第90条に規定する大学に入学することができる者		
⑫対象とする職業の種類:	企業の人材開発担当者、高校・大学教員、リーダーシップ開発コンサルタントを目指す方など				
⑬身に付けることのできる能力:	(身に付けられる知識、技術、技能) ・「権限によらないリーダーシップ」に関する基礎知識と理論構築 ・自己分析手法であるエニアグラムの知識と活用技術 ・メタモデルの知識と活用技術 ・Action Learningの基礎知識と活用技術 ・コーチング技術 ・他者を巻き込む効果的なプレゼンテーションとファシリテーションの技能		(得られる能力) ・リーダーシップ行動最小3要素(目標共有・率先垂範・同僚支援)を表すための自己理解力 ・リーダーシップ行動最小3要素(目標共有・率先垂範・同僚支援)を表すための他者理解力 ・リーダーシップ行動最小3要素(目標共有・率先垂範・同僚支援)を発揮するためのフィードバック力 ・課題設定/解決力 ・質問力 以上の能力を活用し、他者のリーダーシップを開発すること、あらゆる組織の開発をはじめることができるようになる		
⑭教育課程:	本プログラムでは、リーダーシップとは「権限がない状況で発揮するリーダーシップ」として位置付けている。それを身につけるために、理論の座学とともに、リーダーシップを必要とするような環境に身をおいてリーダーシップ発揮を試み、その過程と結果について互いにフィードバックしあってさらに改良していくといったPDCAサイクルを回すようなプログラムの構成としている。討議・相互フィードバック、学習内容の個別プロジェクトでの実践・共有といったプロジェクト型学習により、討議(ファシリテーション)スキル、フィードバックスキル、コーチングスキル、プレゼンテーションスキルといったビジネス・スキルを高めることができ、さらに自己認識・他者への影響力を強化するとともに各自のリーダーシップ持論(theory in practice)の整理、活動の振り返り(中間&最終)、各自の意識や行動に対する相互フィードバック、各自の持ち味を活かしたリーダーシップ発揮の仕方の内省を行う。このように本プログラムは、全体的に理論面と実践面をバランスよく配置しており、特に1980年代から主に米国の研究者(Kouzes & Posner, Komivesら)を中心に概念が整理され、90年代以降米国および英語圏の大学で急速に正規科目として普及してきた現代的なリーダーシップをテーマとして体系的に編成した内容となっている。なお、各講義及び授業の方法として、講師からの説明、プロジェクト型演習とスキル強化演習、さらに大学におけるリーダーシップ開発の現場を実習する講習を含めている。修了課題として各人がプログラム中にとりまとめたリーダーシップ持論をとりまとめる。本プログラムにおいては、ワークショップや課題発見解決型の講習スタイルを取り入れており、リーダーシップ教育についての経験豊富な大学教員と、リーダーシップ開発についての実務を最低5年以上経験したものが担当する。				

⑮修了要件(修了授業時数等):	120時間の履修、毎回の課題提出、及び最終課題(レポート)の合格による修了認定							
⑯修了時に付与される学位・資格等:	履修証明書							
⑰総授業時数:	120	時間	⑱要件該当授業時数:	120	該当要件	双方向実務家	⑲要件該当授業時数 / 総授業時数:	100%
⑳成績評価の方法:	毎回の出席状況、課題提出、最終課題(レポート)などを考慮し、総合的に判断する							
㉑自己点検・評価の方法:	学校教育法第109条第1項に定める評価を実施する。							
㉒修了者の状況に係る効果検証の方法:	修了者に対しアンケートを実施し、効果を検証する。							
㉓企業等の意見を取り入れる仕組み:	(教育課程の編成) 本プログラムの開発過程において、身に付けることのできる能力の開発につき専門性を有する企業が参画することにより、教育課程の編成に外部機関の意見を取り入れる。 (自己点検・評価) プログラムの評価を行うための外部評価委員会(会議)において、第三者評価をすることにより、企業等の意見を反映させる。							
㉔社会人が受講しやすい工夫:	【開講時間】 土曜日の開講を基本とする 【開講場所】 フルオンライン形式にて実施(コロナ禍の影響により、対面⇒オンラインに切替) 【受講形態】 1日内で長時間集中形式で授業を行うことで日数を押さえた形態							
㉕ホームページ:	<a href="https://wasedaneo.jp/service/certificate-programs/leadership/">https://wasedaneo.jp/service/certificate-programs/leadership/</a>							

事務担当者名:	長谷川 亮太	所属部署:	教務部社会人教育事業室
連絡先:	(電話番号)	03-6262-7534	
	(E-mail)	<a href="mailto:r.hasegawa@waseda.jp">r.hasegawa@waseda.jp</a>	

\* パンフレット等の申請する課程の概要が掲載された資料を添付してください。

\* 様式に記載いただいた内容と欄外の「※集計用データ(文部科学省使用)」に記載の内容が、一致しているかを必ずご確認ください。